

様式第7号ア（認定を受けようとする課程を有する大学・学科等における教員養成の目標等に関する書類）

## （1）大学・学科の設置理念

### ①大学

本学は、1889(明治22)年に宣教師 A・E・ランドルフによって始められた金城女学校を前身とする。キリスト教主義にもとづく女子教育と国際理解教育を建学の精神とし、豊かな教養と深い知性を備えた女性を育て、今日まで中部地区における女子高等教育機関として社会的に高い評価を得てきた。本学は、近年の女性の社会進出や高等教育志向の流れの中で、これまでの伝統を継承しつつ、豊かな人間性と高度な専門性を持つ職業人として学生を社会に送り出すことを使命とし、各学部それぞれの専門性を活かし多様な人材を社会に輩出してきた。

### ②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

#### 1 国際英語学科

豊かな人間性を育むとともに、高度な英語コミュニケーション能力と文化や言語の研究を通して身につけた明晰な思考力を活用して、ビジネス、教育、観光などの分野で、世界諸地域の人々と協働しながら主体的に活躍できる人材を養成する。

##### <国際英語学科 ディプロマポリシー>

- ・真理と正義を愛し、世界の平和と人類の福祉に貢献するための基本的な考え方や豊かな人間性を身につけている。
- ・英語とその背後にある文化や社会に関する専門知識を幅広く身につけている。
- ・高度な英語運用能力を身につけ、英語を用いて自分の意見や考えを口頭または文章で明確に伝えることができる。
- ・国際社会における課題を自ら見つけ、必要な情報やデータを収集・分析し、論理的に考察したうえで、結論を導き出すことができる。
- ・ビジネス、教育、観光などの分野において、各々が国際的に活躍するために必要な知識と実践力を身につけている。
- ・隣人のために行動することを通して、他者をいたわり思いやる多文化共生社会実現の重要性を理解できる。

#### 2 総合歴史学科

他者を尊重し、他者と共感的に関わる豊かな人間性を有し、広く教養を身につけ、歴史や文化に関する知識と技能をもつ人材を育成する。日本、アジア、西洋の歴史を学び、多様な地域文化を観る総合的な視点を持ち、現代社会における課題の発見と解決に主体的に取り組み、異なる歴史的背景をもつ人々と協働し、自身の思考力と判断力を用いて国際社会に貢献できる人材を養成する。

##### <総合歴史学科 ディプロマポリシー>

- ・歴史や文化の違いを超えて、他者を尊重し、他者と共感的に関わり、協働する豊かな人間性を有している。
- ・広い教養と、歴史・文化に関する基礎知識を身につけている。
- ・日本、アジア、西洋の歴史を学び、多様な地域文化を観る総合的な視点を有している。
- ・現代社会における課題の発見と解決に主体的に取り組み、自身のことばで発信できる。
- ・異なる歴史的背景をもつ人々と相互に理解し、協働することができる。
- ・歴史と文化に関する学修成果を活かし、自身の思考力と判断力を用いて地域社会に貢献できる。

#### 3 情報デザイン学科

情報社会の理解に必要な教養と豊かな人間性を有し、情報工学ならびに数理・データサイエンス・AIの知識・技術を身につけ、社会課題の解決に向けてソフトウェアやシステムの提案、デジタルコンテンツの制作に主体的に取り組む力を育成し、修得した思考力・行動力・提案力を総合的に活用しながら、課題解決のための方策を計画し、他者と協働しながら実行することができる人材を養成する。

##### <情報デザイン学科 ディプロマポリシー>

- ・情報社会の理解に必要な教養と豊かな人間性を身につけ、主体的に行動する力を有している。
- ・情報工学ならびに数理・データサイエンス・AIの知識・技術を身につけている。
- ・社会課題の解決に向けてソフトウェアやシステムを提案したり、デジタルコンテンツを制作した

りすることができる。

- ・課題解決のための方策を計画し、他者と協働しながら実行することができる。
- ・修得した思考力・行動力・提案力を総合的に活用することができる。

## (2) 教員養成の目標・計画

### ①大学

本学の教員養成の目標は、豊かな人間性ととともに高度な専門性を持つ教員を養成し社会の要請に応えることにある。本学は、「強く、優しく。」を教育スローガンとしているが、自分に対しても他者に対しても強く優しく接することのできる教員、すなわち、しなやかで強靱な精神を持って教育の仕事に携わることのできる質の高い教員を養成し、社会に送り出していくことにある。

この目標を達成するための計画において、以下のことを重視している。第一に、理論と実践の両方を深く、バランスよく学ぶことである。教育学、心理学、カリキュラム開発などの理論を学ぶだけではなく、実習を充実させ、インターンシップや教育現場におけるボランティア活動に積極的に参加することを奨励している。第二に、高度な教科専門知識の習得である。本学では、各教科領域において高い見識のある教員を登用するとともに、アクティブラーニングやICT機器を積極的に授業に導入し、学生が専門分野について深く理解し、高い実践力を身につけることができるように努めている。第三に、多様な学習者に対応する能力の育成である。特別支援教育関係の科目だけではなく、様々な科目において、学校・教師が多様な子どものニーズにいかに対応していくかについて考える機会をもつようにしている。第四に、学び続ける教師の育成である。単に知識や技術を教えるだけではなく、教育現象の背後にある仕組みを深く理解させ、アクティブラーニングを通して、自分たちで考察し、答えを出すことの重要性を伝えている。

### ②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

#### 1 国際英語学科

国際英語学科が養成を目指す教員像は次のような教員である。高度な英語運用能力を有し、英語についての知識と教育技術を兼ね備え、リーダーシップと協調性を持っている。具体的には、グローバルな視野を持ち、多様な文化を理解し、異文化交流の場において、国際共通語としての英語のコミュニケーション能力を十分に発揮できる。また、英語教育の理論と実践に関する知識を持ち、最新の教育方法や技術を駆使でき、生徒の多様なニーズに対応し、学習意欲を高めるための効果的な指導法を導入・実践できる。さらに、教育現場においてリーダーシップを発揮し、他の教員やスタッフと協力して学校運営に貢献できる。

上記の目標を達成するために次のように計画している。

教員を目指す学生が高度な英語運用能力を習得するために包括的なカリキュラムを提供する。「聞く・話す・読む・書く」の4技能を関連させながら統合的に学べるプログラムを導入した授業を展開する。

多文化理解と異文化間コミュニケーション能力を向上させるため、英語とその背後にある文化や社会に関する専門知識を幅広く身につけるための授業を開講する。英語教育に関する最新の理論と実践を学び、それを効果的に教室で活用できるようにし、英語教育を専門とする教員による授業で指導することにより教育理論と実践の融合を図る。授業内でのプレゼンテーションや模擬授業を通じて、実践的な指導力を養成する。学生は学校現場で実習の機会も持つことができる。授業内でのグループワークやチームビルディング活動を通して、リーダーシップと協働スキルを向上させる。

これらの目標と計画を通して、国際英語学科は高い専門性と実践力を持つ教員を養成し、将来受け持つ生徒の学習効果と環境をより良いものにするを目指す。

#### 2 総合歴史学科

現代は環境問題やエネルギー問題など、地球規模で解決しなければならない課題に直面し、国家の枠を超えて取り組むことが求められている。一方で、国家や民族の異なる価値観による対立から、戦争や紛争が世界各地で頻発しているが、国際社会は有効な解決方法を見出すことができていない。このような複雑な現代社会の問題を解決するために、歴史や文化の違いを超えて他者を尊重し、異なる歴史的背景をもつ人々と相互に理解することで、国際社会に貢献することが求められる。

総合歴史学科では、人間の活動範囲が格段に広がった近代以降の世界を対象に、日本、アジア、西洋の結びつきを把握することを学びの目標とする。各々の領域における従来の縦割りの歴史叙述にとどまらず、地球規模で空間的なつながりを理解し、過去から現代までの時代の変遷を踏まえて、現代社会の問題を解決できる人材を育成することを目指している。

総合歴史学科の教員養成では、一国史や縦割りの領域を超えた総合的な歴史学的思考と実践的な地理的理解を活用して、政治、経済、哲学、宗教など広範囲にわたる現代社会の課題を解決に導くために必要な知識や技能を生徒に教授できることを目指している。本学科を卒業した教員は、国内外の問題に対して、歴史や地理だけでなく、社会文化や政治経済などの背景を踏まえた助言を与えることで、生徒が自身の課題を発見し、その解決に向けて積極的に取り組み、自分のことばで発信できるよう指導することが期待できる。

そのために、本学科の教育課程は、歴史学や地理学に加え、法律学、政治学、社会学、経済学、哲学、倫理学、宗教学などの諸学問の方法論に基づき、総合的な歴史研究の体系を構築している。1年次から演習科目を配置し、歴史を学ぶ意義と方法を理解させるとともに、史料講読科目によって、歴史資料を自らの力で解読できる力を養成する。また、実践教養科目や資格関連科目で教育実践に活用できる諸学問の方法論を修得し、プロジェクト科目への参加を通して、修得した方法論を地域学習で実際に試すことで、社会に貢献できる力を身につけることを目指している。

### 3 情報デザイン学科

近年、高度に発展している情報社会において、情報技術の進化が私たちの社会基盤を強化し、日常生活をより便利で効率的にしている。しかし、新しい情報機器やサービスが次々と登場する中で、私たちは日々更新される大量の情報の中から、必要な情報を正しく選び、効果的に利用することが求められている。このような情報過多の時代において、適切な情報リテラシーや判断力が一層重要となりつつある。

このような背景の中、情報デザイン学科では、次のような能力・スキルを身につけた教員を養成することを目標とする。

- ・理論だけでなく、実際のプロジェクト活動を通じて得た実践的なスキル
- ・最新の技術動向を理解し、適応する能力
- ・生徒の成長段階に応じて適切に情報リテラシーを指導できる能力
- ・対面・遠隔双方の情報伝達の特性や対話の本質を理解し、情報社会において効果的にコミュニケーションを取る能力

上記の目標を達成するため、本学科では、社会課題の解決に向けて情報技術を活用する情報デザイン、最先端のデータサイエンス・AI、社会科学の考え方や視点を学ぶ社会ソリューション、実践的なテーマのもとでの実習を重視している。そして、問題発見・解決に取り組むプロジェクト演習を中心とした多様な演習科目により、自らの実践や社会課題への挑戦を通して、健全で持続的な情報社会の発展の重要性を理解させる。

## (3) 認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

### 1 国際英語学科

#### ア 中学校教諭一種免許状（外国語（英語））

国際化が進んだ現代社会においては、英語の国際共通語としての重要性は高まっており、多様な文化を理解・尊重した上で、国際的なコミュニケーション能力を有し、グローバルな視野を持つことが期待される。このような資質を備えた上で、英語を専門的に教えることができる教員を養成することは、学習指導要領における外国語科の目標である「外国語の学習を通して、他者を配慮し受け入れる寛容の精神や平和・国際貢献などの精神を獲得し、多面的思考ができるような人材を育てること」にも合致する。ひいては、国際社会で活躍できる人材を育成することにもつながる。

国際英語学科では、英語のみならず、その背後にある文化や社会に関する専門知識を幅広く身につけた上で、自分の意見や考えを口頭および文章で明確に伝えることができる高度な英語運用能力を習得する。また、国際社会における課題を自ら見つけ、必要な情報やデータを収集・分析し、論理的に考察した上で、結論を導き出すことができる力を養う。このように身につけた能力は、学習指導要領で示されている「情報や考えなどを理解したり表現して伝え合ったりするコミ

コミュニケーションを図る資質・能力」を育成することに役立つ。加えて、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」の育成においても重要となる。つまり、文化や社会的背景を理解した上で、目的や状況に応じて必要な情報を整理し、自らの考えを英語で表現できる生徒を育てることに資する。国際英語学科で本課程を設置し、中学校英語の教員を養成し、世に送り出すことは、中学生が現代のグローバル社会や多様な文化に対する理解を深めながら英語によるコミュニケーション能力を向上させることに寄与することが期待される。

#### イ 高等学校教諭一種免許状（外国語（英語））

現代の国際社会では、国際共通語としての英語の役割はますます重要になっている。多様な文化を理解し尊重した上で、国際的なコミュニケーション能力とグローバルな視野を養うことが求められる。そのような資質を有し、専門的に英語を教えられる能力を備えた教員を養成することは、学習指導要領が掲げる外国語科の目標である「外国語の学習を通して、他者を配慮し受け入れる寛容の精神や平和・国際貢献などの精神を獲得し、多面的思考ができるような人材を育てること」にも沿うものである。また、国際的に活躍する人材の育成にも寄与する。

国際英語学科では、英語とその背景にある文化や社会に関する幅広い専門知識を学んだ上で、自らの意見や考えを口頭および文章で明確に伝えることができる高度な英語運用能力を身につける。また、国際社会における課題を主体的に見つけ、必要な情報やデータを収集・分析し、論理的に考察して結論を導き出すことができる力を要請する。さらに、専門書の精読や論文の執筆等を通してクリティカルシンキングの能力も培う。このように身につけた能力は、学習指導要領の外国語科で示されている育成を目指すべき三つの資質・能力である「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」それぞれに関わる能力の育成に貢献する。具体的には、「英語に関する知識を実際のコミュニケーション場面や状況に応じて適切に活用できる技能」や、「情報や考え、話し手や書き手の意図を理解し、それを基に英語で表現・伝達する能力」、さらに「英語の背後にある文化を理解し、他者に配慮しながら主体的・自律的に英語によるコミュニケーションを図ろうとする態度」を養成することに資する。国際英語学科で本課程を設置し、高等学校英語の教員を養成することは、小・中学校で英語を学んできた高校生が、より豊かな英語コミュニケーション能力と人間性を獲得することに寄与することが期待される。

## 2 総合歴史学科

### ア 中学校教諭一種免許状（社会）

総合歴史学科は、広い教養と歴史や文化に関する知識や技能を活用して、自身の思考と判断力を用いて課題を解決できることを目標とする。そのうえで、中学校社会科を教授する際に必要な他者を尊重し協働できる資質と態度を身につけ、構成員のひとりとして地域社会に貢献できることを目指す。

歴史分野の学びとしては、総合的な視点から日本や世界の歴史を理解し、現代の社会問題を歴史的背景からその原因を探求できるようにする。また、地理分野では、プロジェクト参加を通して、実践をともなう地域学習をおこない、公民分野では、政治学、社会学、宗教学の方法論を活用することで、課題の解決に積極的に関わることができるようにする。そのうえで、自身の思考力と判断力を用いた多面的な分析結果を、自分のことばで発信できる力を養成する。

総合歴史学科に本課程を設置することで、地域社会から国際社会に至る複数の視点から、自身の課題の解決策を模索し、理論実践の経験をもつ社会科の教員を養成することをめざしている。そのうえで、教員が広い教養と専門知識を活用して、地域社会に貢献できることが期待される。

### イ 高等学校教諭一種免許状（地理歴史）

総合歴史学科は、多様な地域文化を観る総合的な視点をもって、現代社会における課題を発見し解決することを目標とする。そのうえで、高等学校地理歴史科を教授するために必要な異なる背景をもつ人々と協働して、国際社会に貢献できる人材を育成することを目指している。

日本史分野の学びとしては、海外からの視点も含めて総合的に歴史を理解するとともに、世界史分野としては、一国史や領域ごとの縦割りを超えて世界を把握することで、国際社会の課題を発見し、その解決に積極的に取り組むことができるようにする。また、地理分野としては、地理学の基本概念や方法論を学ぶことで、身近な地域や空間を地理学的にとらえ、課題解決に役立て

ることができるようにする。あわせて、専門的な調査や史料解読の知識や技能を身につけることで、自身で考察した結果を発信できる力を養成する。

総合歴史学科に本課程を設置することで、日本、アジア、西洋の結びつきを一国史や領域ごとの縦割りを超えて把握し、歴史学や地理学など諸学問の方法論を活用できる地理歴史科の教員を養成することをめざしている。そのうえで、教員が日本社会や国際社会の課題解決に積極的に取り組むことで、社会貢献に寄与できることが期待される。

### 3 情報デザイン学科

#### ア 高等学校教諭一種免許状（情報）

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（令和3年1月26日、中央教育審議会）によれば、AI、ビッグデータ、IoT等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられた Society5.0 時代が到来しつつあり、社会の在り方そのものがこれまでとは「非連続」と言えるほど劇的に変わる状況が生じつつある。このように急激に変化する時代の中で、教育現場では、児童・生徒が多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められている。

このような状況の中で、児童・生徒を取り巻く環境も著しく変化している。検索エンジンや SNS のアルゴリズムが個人の興味や過去の行動に基づいて情報を選別し、多様な視点が排除され特定の情報のみが表示されるフィルターバブル現象、SNS やメッセージアプリなどのデジタルコミュニケーションツールを通じて、児童・生徒が他者と常に接触し、特定の価値観や行動を共有・強要される現象、一斉授業のスタイルの限界等の新たな問題が生じている。また、近年では授業における生成 AI の活用方法が模索される中で、バイアスがかかった情報の生成や、プライバシーの侵害、生成 AI への過度な依存による批判的思考の欠如などの負の側面が指摘されている。しかし、一方で、適切に管理された生成 AI や ICT の活用は、これらの影の側面を解決するための有効な手段となり得る。教育現場においては、生成 AI の利点とリスクを慎重に評価し、バランスの取れた導入と使用が求められる。

このような背景の中で、情報デザイン学科では次に述べる人材を育成する。

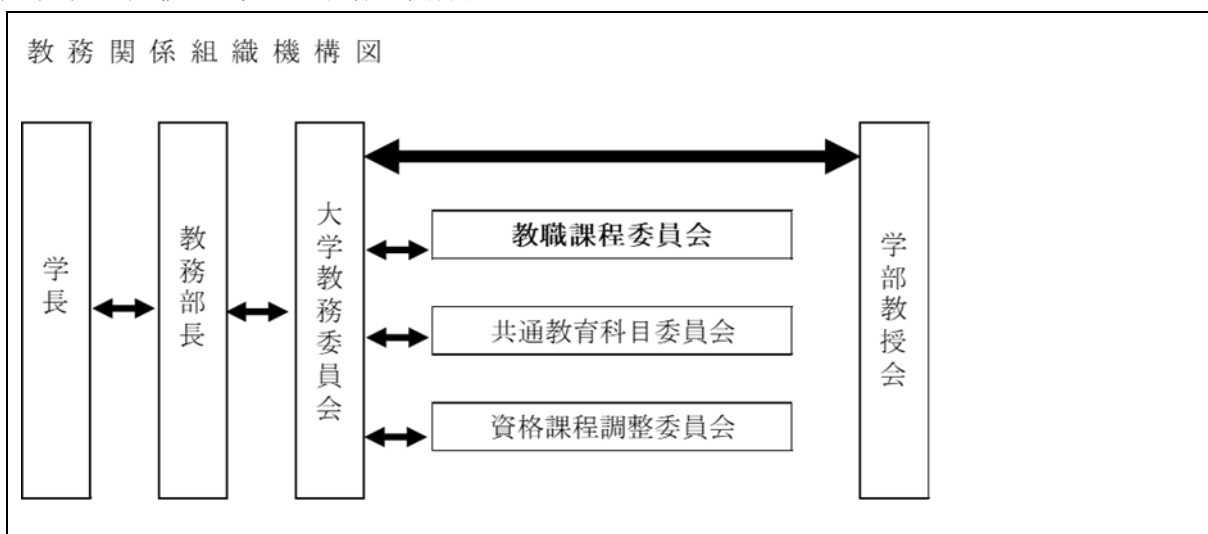
- ・情報技術の急速な発展に対応できる高度な技術力と批判的思考力を兼ね備える人材  
ビッグデータや AI に関する知識を持ち、それらを教育現場で効果的に活用する力を有する。また、情報の多様性を尊重し、偏った情報に対するリテラシーを兼ね備える。さらに、デジタルコミュニケーションツールの適切な使用方法を理解し、児童・生徒が健全なコミュニケーションを行えるよう指導できる能力をもつ。
- ・倫理観とプライバシー保護の意識を高く持つ人材  
情報の取り扱いにおいて、プライバシーの保護や倫理的な問題に対して敏感で、それを実践に移せる力を有する。また、生成 AI の活用の際に、バイアスのない公平な情報提供を心がけ、これを適切に管理・運用できる能力を備える。
- ・問題解決能力と創造性を持つ人材  
プロジェクトベースの学習や協働学習の経験を通じ、実践的スキルと創造的課題解決力を身につけることで、児童・生徒が直面する様々な課題に対して解決策を見出し、実行に移すことができる。
- ・自身が常に学び続ける姿勢を持てる人材  
日々進化し続ける情報技術に対応するため、教員自身も最新の知識と技術を習得し続けることが求められるなか、継続的な学習と自己研鑽を通じて教育現場におけるリーダーシップを発揮し、児童・生徒の模範となることができる。

## I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

## (1) 各組織の概要

組織名称：	金城学院大学教職課程委員会
目的：	本学の教職課程に関する重要事項を審議するとともに、各教職課程間の連携と調整を図り、本学の教職課程全般を円滑に運営することを目的とする。
責任者：	学長
構成員(役職・人数)：	各学部教務委員長(5名) 常任委員 中学校・高等学校教員養成課程における教育実習を担当する専任教員(4名) 特別委員 幼稚園教員養成課程における教育実習を担当する専任教員(1名)、 小学校教員養成課程における教育実習を担当する専任教員(1名)、 栄養教員養成課程における教育実習を担当する専任教員(1名)
運営方法：	全学の教務関係事項を司る大学教務委員会の附置委員会であり、定例の委員会を2ヶ月に1度開催している。 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。 (1) 各教職課程カリキュラム編成及び体制に関する事項 (2) 教職課程運営上の重要事項(但し、課程履修費に関する事項を除く) (3) 文部科学省等対応上の諸問題に関する事項 (4) 各教職課程間の連携と調整に関する事項 (5) 中学校・高等学校教員養成課程における各教科の指導法・教育の基礎的理解に関する科目等の教員人事に関する事項 (6) 中学校・高等学校教員養成課程における教育実習の実施体制に関する事項 (7) 介護等の体験の実施体制に関する事項 (8) 共通教育委員会から付託された事項 (9) その他、本学の教職課程の運営に関して必要な事項

## (2) (1) で記載した個々の組織の関係図



様式第7号イ

## Ⅱ. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

### (1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

とくに愛知県や名古屋市との連携・協力の重要性を鑑み、2007年4月から長年の教育現場経験と教育委員会での仕事実績を有する教員2名を配属し、教育実習と教育委員会主催の学生教育ボランティア事業を中心に、愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会と連携を密にしている。また学生教育ボランティア事業については、教職課程履修者に対して愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会が実施する活動（次項（2）学校現場における体験活動・ボランティア活動等に記載）を紹介し、例年30名ほどの学生が参加している。

### (2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

取組名称：	ふれあいフレンド（名古屋市教育委員会）
連携先の調整方法：	教育委員会からの参加要請を受け、教職課程履修者に参加を促す。参加学生の調整は名古屋市教育委員会に一任。
具体的な内容：	児童が人間関係を広げるよう支援し、よりよい学校生活を送ることができるよう、放課の時間の「遊び」、「学級活動」「総合的な学習の時間」などの授業、学校行事や集会活動に参加している。

## Ⅲ. 教職指導の状況

### ●教職課程ガイダンスについて

1. 本学の教職に関する科目の担当教員が新入生オリエンテーションの中で、教員免許の取得希望の有無に関わらず、教職課程について説明を行う。
2. 更に1年生で教職課程履修希望者に対して、4月中に教職オリエンテーションを実施し以下の説明を行う。
  - ①基礎資格を有すること。
  - ②教科に関する科目、教職に関する科目、教科又は教職に関する科目、66条の6科目の必要単位数
  - ③介護等体験
  - ④教育実習
  - ⑤資格取得に伴う、課程履修費の徴収について
3. 教職課程履修希望者への教職オリエンテーションの実施。
 

2年生以上の学生に対しても各学期、オリエンテーションを実施し、教職課程履修上の心構え、教育実習に向けた準備等について、周知している。

### ●履修指導、各種相談への対応について

中高の教職課程を有する5学部のうち、薬学部を除く4学部に「教育実習」を含む教職に関する科目を担当する専任教員(計4名)が在職している。その専任教員が教職課程履修指導の中心となり、学生に個別の対応をしている。

## 様式第7号ウ

## ＜国際英語学科＞（認定課程：中一種免（英語））

## (1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	英語教師の使命と必要となる知識・技能・心構えを認識した上で、4年間の履修計画と自らの学習目標を明確にする。高等学校までに身につけた英語力を基盤に、英語4技能における基礎力向上に重点を置き学習を進めていく。英語という言語の特徴、およびアメリカ・イギリスを中心に、英語圏の地誌・歴史・文化についての理解を深める。また、教育の基本的概念・理念、および教育の歴史・思想を理解する。児童・生徒の発達・学習に関する基本的な知識を身につける。
	後期	グローバル社会における英語の役割を理解した上で、英語4技能を継続的に向上させるとともに、英文法全体の体系的な理解を完成させる。英語で書かれた文学作品についての関心を深める。また、教師に必要な資質・能力について理解し、現在の学校を取り巻く様々な問題について学校、地域、保護者が連携することの必要性や日本の教育制度の特徴等を理解することができる。教育相談に関わる基本的な理論や知識を学習することにより、教育現場における基本的な姿勢を身につける。
2年次	前期	英語によるディスカッションやプレゼンテーション等に取り組み、英語の実践的運用能力の基礎を習得する。英語学、英語文化学、英語教育学の専門的な知識を身につける。「総合的な学習の時間」の意義を理解し、指導計画を作成できる。教育方法とそれに関わる指導技術の基礎を理解し、ICTを効果的に活用した授業設計をすることができる。情報社会における課題や情報モラルの必要性について理解することができる。
	後期	英語によるディスカッションや長めのプレゼンテーション等に取り組み、英語の実践的運用能力を向上させる。また、現代の学校教育に関する社会的・制度的・経営的事項について基礎的な知識を身につけ、それらに関連する課題を理解することができる。特別支援教育の理念を学び、教育者としての姿勢を確立していく。
	通年	英語科の指導法を学び、学習指導案の作成能力、授業実践力を身につける。
3年次	前期	英語4技能について、発音を含め統合的に向上させ、日常生活、アカデミック、ビジネス等のさまざまな状況において、支障なく英語を用いるための基盤を構築する。英語教育の目的・方法を理解し、模擬授業を通じて自立・協働・創造ができる生徒の育成のための工夫をすることができる。加えて、道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等について理解し、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身につけている。
	後期	英語4技能について、さまざまな状況において、支障なく英語を用いるための訓練を継続し、自信をもって英語を用いることができるレベルへの到達を目指す。また、中学校の教育課程の意義と編成方法、およびカリキュラム・マネジメントを理解する。さらに、学習指導案の作成と模擬授業の経験を通して、教育実習に向けての態勢を整える。学校教育における特別活動の意義、および生徒指導・進路指導・キャリア教育の基礎知識を身につけ、教科の枠にとらわれない指導のあり方について理解する。
4年次	前期	卒業ゼミレポートの研究を通して、英語学、英語文化学、英語教育学について、アカデミックな研究姿勢を身につける。さまざまな状況で高いレベルの英語を使いこなせるように学習と訓練を継続する。
	後期	卒業ゼミレポートの研究を通して、英語学、英語文化学、英語教育学について、アカデミックな学びを完成させること、および、さまざまな状況で高いレベルの英語を使いこなす力を習得することにより、国際英語学科での学びを完成させる。さらに、「教職実践演習」を通して、教師として必要な資質・能力である「①使命感や責任感、教育的愛情、②社会性や対人関係、③生徒理解や学級経営、④教科の指導力、⑤問題解決能力」を理解する。
	通年	教育実習を経験することにより、教師の職務と学校現場における生徒を理解し、大学で修得した英語力と教育理論を基盤とする実践的な指導力を身につける。

## 様式第7号ウ（教諭）

## ＜国際英語学科＞（認定課程：中一種免（英語））

## (2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	学校と教育の歴史	英語のしくみ		Speaking Skills (1) ※再掲	Reading Skills (1)
		発達と学習	英語圏文化入門		情報リテラシー	Writing Skills (1)
			English Grammar (1)			TOEIC 演習A
			Speaking Skills (1)			
	後期	教職入門	国際社会の中の英語		Speaking Skills (2) ※再掲	Reading Skills (2)
		教育相談	英米文学の世界			Writing Skills (2)
			English Grammar (2)			TOEIC 演習B
			Speaking Skills (2)			
2年次	前期	総合的な学習の時間の指導法	Speaking Skills (3)		日本国憲法	Writing Skills (3)
		教育の方法及び情報通信技術の活用	アメリカ文化概論			TOEIC 演習C
			英語構造研究(1)			小学校英語
	後期	特別支援教育の理論と方法	Speaking Skills (4)		スポーツの理論と実技	Writing Skills (4)
		教育社会学	アメリカ文学概論			TOEIC 演習D
	通年	英語科指導法A				
3年次	前期	英語科指導法B	Advanced English (1)			早期英語教育研究
		道徳教育の理論と方法	Integrated English (1)			
	後期	英語科指導法C	Advanced English (2)			早期英語教育教材研究
		教育課程論	Integrated English (2)			
		特別活動の指導法				
		生徒・進路指導とキャリア教育の理論と方法				
4年次	前期		Advanced English (3)			Classroom English
	後期	教職実践演習	Advanced English (4)			早期英語教育実習
通年	教育実習A					

## 様式第7号ウ

## &lt;国際英語学科&gt;(認定課程:高一種免(英語))

## (1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	英語教師の使命と必要となる知識・技能・心構えを認識した上で、4年間の履修計画と自らの学習目標を明確にする。高等学校までに身につけた英語力を基盤に、英語4技能における基礎力向上に重点を置き学習を進めていく。英語という言葉の特徴、およびアメリカ・イギリスを中心に、英語圏の地誌・歴史・文化についての理解を深める。また、教育の基本的概念・理念、および教育の歴史・思想を理解する。児童・生徒の発達・学習に関する基本的な知識を身につける。
	後期	グローバル社会における英語の役割を理解した上で、英語4技能を継続的に向上させるとともに、英文法全体の体系的な理解を完成させる。英語で書かれた文学作品についての関心を深める。また、教師に必要な資質・能力について理解し、現在の学校を取り巻く様々な問題について学校、地域、保護者が連携することの必要性や日本の教育制度の特徴等を理解することができる。教育相談に関わる基本的な理論や知識を学習することにより、教育現場における基本的な姿勢を身につける。
2年次	前期	英語によるディスカッションやプレゼンテーション等に取り組み、英語の実践的運用能力の基礎を習得する。英語学、英語文化学、英語教育学の専門的な知識を身につける。「総合的な探求の時間」の意義を理解し、指導計画を作成できる。教育方法とそれに関わる指導技術の基礎を理解し、ICTを効果的に活用した授業設計をすることができる。情報社会における課題や情報モラルの必要性について理解できる。
	後期	英語によるディスカッションや長めのプレゼンテーション等に取り組み、英語の実践的運用能力を向上させる。また、現代の学校教育に関する社会的・制度的・経営的事項について基礎的な知識を身につけ、それらに関連する課題を理解することができる。特別支援教育の理念を学び、教育者としての姿勢を確立していく。
	通年	英語科の指導法を学び、学習指導案の作成能力、授業実践力を身につける。
3年次	前期	英語4技能について、発音を含め統合的に向上させ、日常生活、アカデミック、ビジネス等のさまざまな状況において、支障なく英語を用いるための基盤を構築する。英語教育の理念や政策、教室で用いる英語教材、学習指導案の作成について理解する。英語教育の目的・方法を理解し、模擬授業を通じて自立・協働・創造ができる生徒の育成のための工夫をすることができる。
	後期	英語4技能について、さまざまな状況において、支障なく英語を用いるための訓練を継続し、自信をもって英語を用いることができるレベルへの到達を目指す。また、高等学校の教育課程の意義と編成方法、およびカリキュラム・マネジメントを理解する。さらに、学習指導案の作成と模擬授業の経験を通して、教育実習に向けての態勢を整える。学校教育における特別活動の意義、および生徒指導・進路指導・キャリア教育の基礎知識を身につけ、教科の枠にとらわれない指導のあり方について理解する。
4年次	前期	卒業ゼミレポートの研究を通して、英語学、英語文化学、英語教育学について、アカデミックな研究姿勢を身につける。さまざまな状況で高いレベルの英語を使いこなせるように学習と訓練を継続する。
	後期	卒業ゼミレポートの研究を通して、英語学、英語文化学、英語教育学について、アカデミックな学びを完成させること、および、さまざまな状況で高いレベルの英語を使いこなす力を習得することにより、国際英語学科での学びを完成させる。さらに、「教職実践演習」を通して、教師として必要な資質・能力である「①使命感や責任感、教育的愛情、②社会性や対人関係、③生徒理解や学級経営、④教科の指導力、⑤問題解決能力」を理解する。
	通年	教育実習を経験することにより、教師の職務と学校現場における生徒を理解し、大学で修得した英語力と教育理論を基盤とする実践的な指導力を身につける。

## 様式第7号ウ（教諭）

## ＜国際英語学科＞（認定課程：高一種免（英語））

## (2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	学校と教育の歴史	英語のしくみ		Speaking Skills (1) ※再掲	Reading Skills (1)
		発達と学習	英語圏文化入門		情報リテラシー	Writing Skills (1)
			English Grammar (1)			TOEIC 演習A
			Speaking Skills (1)			
	後期	教職入門	国際社会の中の英語		Speaking Skills (2) ※再掲	Reading Skills (2)
		教育相談	英米文学の世界			Writing Skills (2)
			English Grammar (2)			TOEIC 演習B
			Speaking Skills (2)			
2年次	前期	総合的な学習の時間の指導法	Speaking Skills (3)		日本国憲法	Writing Skills (3)
		教育の方法及び情報通信技術の活用	アメリカ文化概論			TOEIC 演習C
			英語構造研究(1)			小学校英語
	後期	特別支援教育の理論と方法	Speaking Skills (4)		スポーツの理論と実技	Writing Skills (4)
		教育社会学	アメリカ文学概論			TOEIC 演習D
	通年	英語科指導法A				
3年次	前期	英語科指導法B	Advanced English (1)			早期英語教育研究
			Integrated English (1)	道徳教育の理論と方法		
			イギリス文化概論			
	後期	英語科指導法C	Advanced English (2)			早期英語教育教材研究
		教育課程論	Integrated English (2)			
		特別活動の指導法	イギリス文学概論			
	生徒・進路指導とキャリア教育の理論と方法					
4年次	前期		Advanced English (3)			Classroom English
	後期	教職実践演習	Advanced English (4)			早期英語教育実習
	通年	教育実習B				

## 様式第7号ウ

## ＜総合歴史学科＞（認定課程：中一種免(社会)）

## (1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	中学教科「社会」教員免許状取得に向けて自らの動機と目的を明確にし、教職課程の特質と概要を理解する。教職課程の履修計画を立てて、日本、アジア、西洋の歴史に関する基礎的な位置づけをもつ科目を重点的に履修し、中学教科「社会」を教授するために必要な基礎的知識及び技能を修得する。また、教育の基本的概念・理念、および教育の歴史・思想を理解する。児童・生徒の発達・学習に関する基本的な知識を身につける。
	後期	日本、アジア、西洋の歴史に関する基礎的な位置づけをもつ科目を重点的に履修するとともに、宗教学概論を履修し宗教的側面から現代社会を理解することで、中学教科「社会」を教授するために必要な基礎的知識及び技能を修得する。また、教師に必要な資質・能力について理解し、現在の学校を取り巻く様々な問題について学校、地域、保護者が連携することの必要性や日本の教育制度の特徴等を理解することができる。教育相談に関わる基本的な理論や知識を学習することにより、教育現場における基本的な姿勢を身につける。
2年次	前期	日本、アジア、西洋の歴史に関する基礎的な位置づけをもつ科目を重点的に履修するとともに、社会学概論を履修し現代社会への理解を深める。また、地誌学概論を履修し、地理の基礎的知識を修得する。中学教科「社会」に関わる原理と教科内容及びその指導方法についての基礎的知識と技能を修得する。「総合的な学習の時間」の意義を理解し、指導計画を作成できる。教育方法とそれに関わる指導技術の基礎を理解し、ICTを効果的に活用した授業設計をすることができる。情報社会における課題や情報モラルの必要性について理解することができる。
	後期	日本、アジア、西洋の歴史に関する基礎的な位置づけをもつ科目を重点的に履修するとともに、政治学概論を履修し政治的側面から現代社会への理解を深める。中学教科「社会」指導法の基礎知識を修得し、指導案の作成と模擬授業を通して、授業実践力を身につける。また、現代の学校教育に関する社会的・制度的・経営的事項について基礎的な知識を身につけ、それらに関連する課題を理解することができる。特別支援教育の理念を学び、教育者としての姿勢を確立していく。
3年次	前期	日本、アジア、西洋の歴史に関する発展的な位置づけをもつ科目を重点的に履修するとともに、2年次までに修得した専門領域における知識と中学教科「社会」の内容を関連づけ、自主的に探究する方法を身につける。加えて、道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等について理解し、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身につけている。
	後期	日本、アジア、西洋の歴史に関する発展的な位置づけをもつ科目を重点的に履修するとともに、人文地理学を履修し、地理への理解を深める。中学教科「社会」の総合的な学習・探求及び特別活動の意義を理解し、その特質を踏まえた指導に必要な知識及び技能を身につける。教育実習の目的や内容を理解し、計画を立てる。また、中学校の教育課程の意義と編成方法、およびカリキュラム・マネジメントを理解する。学校教育における特別活動の意義、および生徒指導・進路指導・キャリア教育の基礎知識を身につけ、教科の枠にとらわれない指導のあり方について理解する。
4年次	前期	3年次までに修得した歴史、地理、社会等の専門領域における知識と中学教科「社会」の内容を関連づけ、質の高い教育実践を目指す意識と態度を身につける。
	後期	教育実習の振り返りと事後指導を通して教職の目的を再認識するとともに、これまでに蓄積してきた歴史、地理、社会等の専門領域における知識と中学教科「社会」の内容を関連づけ、質の高い教育を実現することのできる意識と自信を確立する。
	通年	教育実習を通して、教職の責任感及び実践力を修得し、必要な資質・能力を形成する。

様式第7号ウ(教諭)

&lt;総合歴史学科&gt;(認定課程:中一種免(社会))

(2)具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	学校と教育の歴史	日本史入門(1)		英語コミュニケーションA	フィールドワーク研究
		発達と学習	アジア史入門(1)		情報リテラシー	
			西洋史入門(1)		スポーツの理論と実技	
			西洋史概論A			
	後期	教職入門	日本史入門(2)		日本国憲法	考古学概論
		教育相談	アジア史入門(2)		英語コミュニケーションB	アーカイブズ研究
			西洋史入門(2)			歴史文化研修C
			日本史概論B			
			西洋史概論B			
			宗教学概論			
2年次	前期	社会科・地理歴史科指導法A	日本史概論A			日本史各論A
		社会科・地理歴史科指導法C	アジア史概論A			西洋文化史A
		総合的な学習の時間の指導法	社会学概論			
		教育の方法及び情報通信技術の活用	地誌学概論			
	後期	社会科・地理歴史科指導法B	アジア史概論B			西洋史各論B
		社会科・地理歴史科指導法D	政治学概論			日本文化史B
		特別支援教育の理論と方法				西洋文化史B
		教育社会学				西洋史特殊講義A
3年次	前期	道徳教育の理論と方法	宗教学各論			地域情報学
						西洋史各論A
						日本史特殊講義C
						西洋史史料講読A
						アジア文化史A
						西洋文化史A
						アメリカ文化史
						イギリス文化史
	後期	教育課程論	人文地理学			アジア史特殊講義B
		特別活動の指導法				西洋史史料講読B
		生徒・進路指導とキャリア教育の理論と方法				アジア文化史B
						文化人類学概論
						アジア史特殊講義C
4年次	前期					
	後期	教職実践演習(中高)				文化遺産研究
通年	教育実習A					

## 様式第7号ウ

## ＜総合歴史学科＞（認定課程：高一種免(地理歴史)）

## (1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	高校教科「地理歴史」教員免許状取得に向けて自らの動機と目的を明確にし、教職課程の特質と概要を理解する。教職課程の履修計画を立てて、日本、アジア、西洋の歴史に関する基礎的な位置づけをもつ科目を重点的に履修し、高校教科「地理歴史」を教授するに必要な基礎的知識及び技能を修得する。また、教育の基本的概念・理念、および教育の歴史・思想を理解する。児童・生徒の発達・学習に関する基本的な知識を身につける。
	後期	日本、アジア、西洋の歴史に関する基礎的な位置づけをもつ科目を重点的に履修することで、高校教科「地理歴史」を教授するに必要な基礎的知識及び技能を修得する。また、教師に必要な資質・能力について理解し、現在の学校を取り巻く様々な問題について学校、地域、保護者が連携することの必要性や日本の教育制度の特徴等を理解することができる。教育相談に関わる基本的な理論や知識を学習することにより、教育現場における基本的な姿勢を身につける。
2年次	前期	日本、アジア、西洋の歴史に関する基礎的な位置づけをもつ科目を重点的に履修する。また、地誌学概論と自然地理学を履修し、地理の基礎的知識を修得する。高校教科「地理歴史」に関わる原理と教科内容及びその指導方法についての基礎的知識と技能を修得する。「総合的な探求の時間」の意義を理解し、指導計画を作成できる。教育方法とそれに関わる指導技術の基礎を理解し、ICTを効果的に活用した授業設計をすることができる。情報社会における課題や情報モラルの必要性について理解することができる。
	後期	日本、アジア、西洋の歴史に関する基礎的な位置づけをもつ科目を重点的に履修する。高校教科「地理歴史」指導法の基礎知識を修得し、指導案の作成と模擬授業を通して、授業実践力を身につける。また、現代の学校教育に関する社会的・制度的・経営的事項について基礎的な知識を身につけ、それらに関連する課題を理解することができる。特別支援教育の理念を学び、教育者としての姿勢を確立していく。
3年次	前期	日本、アジア、西洋の歴史に関する発展的な位置づけをもつ科目を重点的に履修するとともに、2年次までに修得した専門領域における知識と高校教科「地理歴史」の内容を関連づけ、自主的に探究する方法を身につける。
	後期	日本、アジア、西洋の歴史に関する発展的な位置づけをもつ科目を重点的に履修するとともに、人文地理学、地誌学各論を履修し、地理への理解を深める。高校教科「地理歴史」の総合的な学習・探求及び特別活動の意義を理解し、その特質を踏まえた指導に必要な知識及び技能を身につける。教育実習の目的や内容を理解し、計画を立てる。また、高等学校の教育課程の意義と編成方法、およびカリキュラム・マネジメントを理解する。学校教育における特別活動の意義、および生徒指導・進路指導・キャリア教育の基礎知識を身につけ、教科の枠にとらわれない指導のあり方について理解する。
4年次	前期	3年次までに修得した歴史と地理の専門領域における知識と高校教科「地理歴史」の内容を関連づけ、質の高い教育実践を目指す意識と態度を身につける。
	後期	教育実習の振り返りと事後指導を通して教職の目的を再認識するとともに、これまでに蓄積してきた歴史と地理の専門領域における知識と高校教科「地理歴史」の内容を関連づけ、質の高い教育を実現することのできる意識と自信を確立する。
	通年	教育実習を通して、教職の責任感及び実践力を修得し、必要な資質・能力を形成する。

様式第7号ウ(教諭)

&lt;総合歴史学科&gt;(認定課程:高一種免(地理歴史))

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	学校と教育の歴史	日本史入門(1)		英語コミュニケーションA	フィールドワーク研究
		発達と学習	アジア史入門(1)		情報リテラシー	
			西洋史入門(1)		スポーツの理論と実技	
			西洋史概論A			
	後期	教職入門	日本史入門(2)		日本国憲法	考古学概論
		教育相談	アジア史入門(2)		英語コミュニケーションB	アーカイブズ研究
			西洋史入門(2)			歴史文化研修C
			日本史概論B			
		西洋史概論B				
2年次	前期	社会科・地理歴史指導法A	日本史概論A			日本史各論A
		社会科・地理歴史科指導法C	アジア史概論A			西洋史各論A
		総合的な学習の時間の指導法	自然地理学			西洋文化史A
		教育の方法及び情報通信技術の活用	地誌学概論			
	後期	社会科・地理歴史科指導法B	アジア史概論B			古文書学
		社会科・地理歴史科指導法D				西洋史各論B
						日本文化史B
		特別支援教育の理論と方法				西洋文化史B
	教育社会学				西洋史特殊講義C	
3年次	前期			道德教育の理論と方法		日本史特殊講義C
						西洋史史料講読A
						アジア文化史A
						西洋文化史A
						アメリカ文化史
						イギリス文化史
						西洋美術史A
	後期	教育課程論	人文地理学			アジア史特殊講義B
		特別活動の指導法	地誌学各論			西洋史史料講読B
		生徒・進路指導とキャリア教育の理論と方法				アジア文化史B
						史料調査方法論
4年次	前期					アジア史特殊講義C
	後期	教職実践演習(中高)				文化遺産研究
	通年	教育実習B				

## 様式第7号ウ

&lt;情報デザイン学科&gt;(認定課程:高一種免(情報) )

## (1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	情報技術が進展し、更なるデジタルトランスフォーメーション(DX)が求められている現代社会において、情報やテクノロジーの進展が社会に与える影響を踏まえて情報社会の概念を理解する。併せて、社会課題解決のための情報の効果的な活用方法について考え、メディア、プログラミング、デジタル表現等の基礎的な知識・技術と、それらを支える数学の基礎知識を修得する。また、教育の基本的概念・理念、および教育の歴史・思想を理解する。児童・生徒の発達・学習に関する基本的な知識を身につける。
	後期	現代社会における多様な課題について情報デザインの視点から解決方法を考え実践できるように、社会課題の解決における情報工学の意義について理解を深めるとともに、AIの進展がもたらす影響や可能性、情報デザインの理論や歴史についての基礎知識を修得し、デザイン思考について理解を深める。同時に、情報の知識・技術を生かしたキャリア形成、法的な観点からのトラブル解決の視点を身につける。また、教師に必要な資質・能力について理解し、現在の学校を取り巻く様々な問題について学校、地域、保護者が連携することの必要性や日本の教育制度の特徴等を理解することができる。教育相談に関わる基本的な理論や知識を学習することにより、教育現場における基本的な姿勢を身につける。
2年次	前期	社会基盤を支える情報処理システムの仕組みを理解できるよう、コンピュータの構成、ネットワーク技術、およびITを活用した経営戦略などにかかわる知識を幅広く理解する。現代の重要な情報発信手段となっているWebサイトの技術的な仕組みを理解した上で、演習を通してWebサイトを制作できる能力を修得し、Webサイトの公開・運用に関する知識まで身につける。また、「総合的な探求の時間」の意義を理解し、指導計画を作成できる。教育方法とそれに関わる指導技術の基礎を理解し、ICTを効果的に活用した授業設計をすることができる。情報社会における課題や情報モラルの必要性について理解する。
	後期	社会基盤を支える情報処理システムの仕組みを理解できるよう、データベース、セキュリティ、情報システム、および開発におけるマネジメントなどにかかわる知識を幅広く理解する。コンピュータアーキテクチャに関する幅広い知識として、コンピュータの基本構造と機能、および、コンピュータ処理を効率化・高速化する手法を理解する。CG(コンピュータグラフィックス)とVR(バーチャルリアリティ)の基本原則と技術を学習し、映像制作作品に活用する方法を理解する。また、現代の学校教育に関する社会的・制度的・経営的事項について基礎的な知識を身に付け、それらに関連する課題を理解できる。特別支援教育の理念を学び、教育者としての姿勢を確立していく。
	通年	学習指導要領が目指す教育、情報科の目標について理解し、情報科の専門的内容を高校生に指導できる力を身につけ、指導案、教材作成をすることができる。
3年次	前期	情報ネットワークの基本事項として、通信プロトコルの階層化と標準化、パケット通信の原理、各種の情報ネットワーク機器の役割と動作原理などを理解する。また、情報セキュリティの基礎知識から、インシデントへの具体的な対応方法までを幅広く学ぶことで、情報セキュリティの重要性を深く理解し、日々進化する脅威に対して適切に対応できる能力を身につける。さらに、情報ネットワークで配信するデジタルコンテンツとして3次元コンピュータグラフィックスを制作する方法を修得する。
	後期	複雑な問題に対する最適な解決策を見つけるための科学的技法であるオペレーションズリサーチの基礎知識として、時系列分析・回帰分析などによる需要予測、在庫管理、線形計画法、決定問題、待ち行列などの理論を理解し、これらを具体的な問題に適用する力を身につける。また、高等学校の教育課程の意義と編成方法、およびカリキュラム・マネジメントを理解する。学校教育における特別活動の意義、および生徒指導・進路指導・キャリア教育の基礎知識を身につけ、教科の枠にとらわれない指導のあり方について理解する。
4年次	前期	4年間の学びを通じて蓄積してきた情報工学、数理・データサイエンス、メディア表現の各領域における知識と、高校教科「情報」の学習内容を有機的に結びつけ、質の高い教育を行うため意識と実践力を養うことを目指す。
	後期	卒業研究に関する取り組みや、4年間で修得した情報デザイン分野の知識・技能、そして教育実習での実践を土台として、情報科教員としての指導力を磨き上げることを目指す。
	通年	教育実習を通して、教職の責任感及び実践力を修得し、必要な資質・能力を形成する。

様式第7号ウ（教諭）

&lt;情報デザイン学科&gt;（認定課程：高一種免（情報））

(2)具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	学校と教育の歴史	情報社会論		英語コミュニケーションA	デジタル表現基礎
		発達と学習	プログラミング基礎		情報リテラシー	数学基礎
			メディア論		スポーツの理論と実技	
	後期	教職入門	デザイン論		日本国憲法	情報デザインとキャリア
		教育相談	情報工学基礎		英語コミュニケーションB	情報と法
2年次	前期	総合的な学習の時間の指導法	情報処理論			データサイエンス基礎
		教育の方法及び情報通信技術の活用	Webデザイン技術A			情報社会とアクセシビリティ
	後期	特別支援教育の理論と方法	情報システム論			データエンジニアリング
		教育社会学	コンピュータアーキテクチャ			Webデザイン技術B
			CG-VR論			
通年	情報科指導法					
3年次	前期		情報ネットワーク論			UI/UXデザイン
			情報セキュリティ論			プログラミング応用C
			3D-CG技術			
	後期	教育課程論	情報倫理論			知能ロボティクス
		特別活動の指導法	モデル化とシミュレーション			デジタルファブリケーション
		生徒・進路指導とキャリア教育の理論と方法	映像コンテンツ制作技術			
4年次	前期					
	後期	教職実践演習(中高)				
通年	教育実習B					